調査問題作成の基本的な考え方

調査問題は、各設問の正答率や誤答の状況から課題の有無を把握し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、特に、次の点に配意して作成しています。

① 学習指導要領の理念、目標・内容等に基づくものとし、小学校の調査問題については小学校第５学年までに、中学校の調査問題については中学校第２学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられるものを、各領域等からバランスよく出題すること。

② 調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等に役立てるという視点から、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題すること。

③ 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善等に資するよう、知識と活用を一体的に問うこと。なお、調査問題の構成（問題数、分野・領域、出題形式等）については、教科の特性に応じて柔軟に設計するものとすること。

④ 児童生徒が全ての問題に十分に取り組むことができるよう、問題の分量が調査時間（解答時間）に照らして適切なものとなるよう努めること。また、児童生徒の調査の負担に配慮すること。

⑤ 過去の調査で見られた課題を踏まえた問題も出題すること。

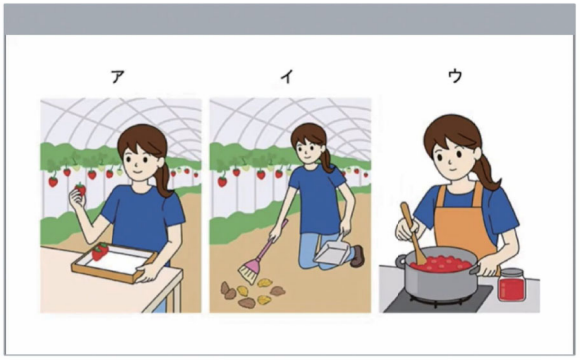
「解答類型」について

○ 全国学力・学習状況調査では、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握できるように、設定する条件等に即して解答を分類・整理した「解答類型」を設けています。
○ 正誤だけではなく、一人一人の解答の状況（どこでつまずいているのか）に着目して、学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

（例） 令和8年度調査　中学校　英語　4

4

<問題文>
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ ⇨ ② 選択肢から選ぶ ⇨ ③ 選択肢から選ぶ

【解答類型と反応率】

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
4	1	ア→イ→ウと解答しているもの		4.0	
	2	ア→ウ→イと解答しているもの		21.5	
	3	イ→ア→ウと解答しているもの		19.6	
	4	イ→ウ→アと解答しているもの		2.8	
	5	ウ→ア→イと解答しているもの		44.4	◎
	6	ウ→イ→アと解答しているもの		5.0	
	99	上記以外の解答		2.5	
	0	無解答		0.3	

（N= 283,194 人）

＜ 正　答 ＞　「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

＜解答類型2の分析＞

解答類型2に該当する生徒は、3つ目の場面“Finally”と出来事を聞き取ることができているが、残る2つの場面と出来事を時間の流れに沿って聞き取ることができていないと考えられる。

調査の活用について①

１．解説資料

○ 調査実施後、速やかに（調査結果の返却を待たずとも）児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握し、学習指導の改善・充実に取り組む際に役立てることができるよう作成。
（調査実施日当日に国立教育政策研究所ホームページに掲載。）

○ 各問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

２．報告書

○ 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に取り組む際に役立てることができるよう作成。
（今年度は８月３日の結果公表日に国立教育政策研究所ホームページに掲載。）

○ 設問ごとの正答率、解答類型ごとの反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

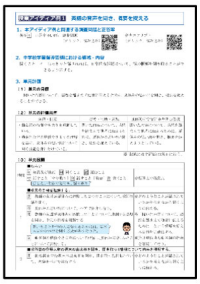
調査の活用について②

※授業アイディア例

○ 授業の改善・充実により資するよう、「授業アイディア例」を報告書内に掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示している。

○ 課題等が見られた事項について、授業のアイディアの一例を示すものとして作成。

○ 中学校英語について、IRTスコアやG-P分析図の分析を生かした授業改善の視点を紹介。



３．説明会の開催等

○ 教育委員会の担当指導主事等を対象に全国説明会を開催し、調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実のポイント等について説明（本説明会）

○ 教育委員会が開催する研修会等に学力調査官を派遣

教育委員会や学校での活用事例

教育委員会では…

各教育委員会等での研修会等において、調査問題に関連した課題を取り上げ、解説資料や報告書を基にして検討する。
その際、関連する過去の問題に当たったり、報告書の「授業アイディア例」を参考にしたりして、授業づくりを行う。

学校では…

調査問題を対象学年の先生方だけでなく、他の先生と一緒に解いてみる。そして、解説資料や報告書等を参考にしながら、どのような力が必要なのか考える。

調査実施後、児童生徒の解答を自校で確認する。その際、解説資料を参考にしながら、児童生徒の解答状況を把握し、弱点・つまずきを捉える。

解説資料や報告書の「学習指導に当たって」を参考にして、指導計画の改善・充実を図る。

調査問題や解説資料、報告書、報告書の「授業アイディア例」を参考にして、授業で扱う教材づくりや学習の成果を評価するための問題づくりを行う。

校内での授業研究において、調査問題に関連した課題を取り上げる際、解説資料や報告書等を参考としながら全国学力・学習状況調査との関係を学習指導案に明記する。

調査問題には、問題ごとに学習指導の改善・充実に向けたメッセージがあります。
日々の授業における様々な場面において、１問からでも取り上げていくことが可能です。
全国学力・学習状況調査の調査問題や解説資料、報告書を一層お役立ていただき、
先生方の日々の指導のアイディアが広がっていくことを期待しています。